



## 子どもに「読む力」を

教頭 新田見誠

葛塚小学校は、平成30・31年度の2年間、文部科学省（国立教育政策研究所）の研究指定校に選ばれました。研究教科は、「国語科」です。各年度とも、文部科学省の方をお招きし、私たちの取組を他校の先生方に紹介する研究会も開催する予定です。

この指定を受け、私たちが一番大事に考えたことは、「子どもたちの国語の力を高める」ことです。今年度は、学校全体として国語科の内容の中でも、「読む力」を高めることに重点をおくことにしました。

私は、はじめて1年生を担当したとき、国語の授業で悩んだことがあります。それは、子どもたちに物語の音読をさせたときです。ひらがなを覚えたばかりの1年生に、教科書に載っていた物語を読ませようとしたところ、難しいと感じる子どもが多くいました。私は悩んだ結果、次のようなステップで子どもたちに音読させることにしました。

- ①物語を、1文ずつ先生と子どもとで交代しながら読む。
- ②話のまとまりごとに、先生と子どもとで交代しながら読む。  
(登場人物Aが話したところは子どもが読み、登場人物Bは先生が読む)
- ③物語全部を、子どもが一人で読む。
- ④物語全部を、子どもが一人で読み、おもしろかったところと理由をノートに書く。
- ⑤物語を読む前に、子どもに問題を出しておき、答えを探すために読む。

上記のことは、特別なことは何ともありません。けれども、子どもが何かを習得するときに、少しずつ少しずつステップをふんで、階段をのぼるように力をつけることが大切だと学びました。

高学年になると、物語や説明文の文字数は多くなります。読み取る情報が多くなり、子どもは整理できないと内容が分からなくなるときがあります。内容を理解したり、問題に答えたりするときには、読み取った中から「必要な情報を選ぶ力」が大切になってきます。ときには、不要な情報を捨てて読むということにもつながります。

今年度、子どもの学力を高めるため、子どもの「読む力」を高めるために、1年生から6年生まで、どんなステップをふめばよいのかを教職員がアイデアを出し合い、全校体制で取り組んでいきます。



## 〈学力向上部〉

### 国語科の授業改善と深い学びにつながる対話

昨年度、「問題解決型の授業」「深い学びにつながるペア対話」を毎時間の授業において日々の教育活動に取り組みました。ある程度の成果を得ることができましたが、昨年度行った各種調査活動から、国語科において、正しく文章を読み取ることが苦手な子どもが多いことが分かりました。また、普段の国語科の授業では、学習課題とまとめのある問題解決型の授業の難しさを感じる教員もいます。さらに、深い学びにつながるペア対話については、対話を取り入れることへの手応えを感じながらも、効果的な対話になっていない状況です。

そこで、今年度は、言語によるかかわり合いを通して課題解決を進める子どもの姿を目指していきます。そのために、国語科において、次の2つのことに取り組んでいきます。

○子どもの目的意識を高める単元の開発と読みの指導

○単元における効果的な対話の場面設定

単元の開発は、子どもが単元を通して目的意識をもって「学習課題」を解決していけるように、単元の最初にゴール（目標）を明確にし、それに向けて問題解決型の授業を取り入れていくことです。そのための職員研修を定期的に進めていきます。また、文章を正しく読み取り、深く読み進めるための技能を子どもたちに身に付けさせることも必要と考えています。効果的な対話の場面設定は、深い学びとなった具体的な姿を明確にし、「どの場面」で、「どんな目的」で、「どのような形態」で対話を意図的に設定した授業を日常的に進めていきます。

（学力向上部 主任 高橋 淳）

## 〈心の教育部〉

### 今年度も、学級力向上の取組を続けます！

学級力向上の取組が3年目となりました。昨年度も、学校評価アンケートで「話し合いをしてよかった」「話し合いを通して自分たちで決めたことを意識して行動できた」と肯定的に回答した児童が90%を超え、大きな成果を上げました。また、「登下校で雪山に登る子が少なかった」などの地域の方からの声があり、実際にマナーが良くなった姿がありました。

さて、目指す子どもの姿は「助け合う子」です。いろんな場面で助け合う子どもたちが見られるように、次の2点に重点を置いて指導します。

◎ **学級力アンケートを継続します。**

昨年度成果があった学級力向上の取組を今年度も続けます。子どもたちが決めた取組を見守り、必要に応じて改善を図ります。

◎ **自己有用感の向上を意識した取組をします。**

昨年度の新潟市生活学習意識調査では、新潟市平均に比べて、自己肯定感（自分にはよいところがあるという感覚）が低い結果が出ました。そこで、学級力向上の取組と合わせて、教育活動全体で自己有用感（自分は誰かの役に立っているという感覚）の向上を意識した取組（ほめほめシャワー、きりり郵便など）を行い、自己肯定感の向上を図ります。今後も、ご理解とご協力をお願いします。

（心の教育部 主任 松本 和大）

## 〈健康・体育部〉

### キーワードは、「全校統一」「運動量」「家庭と連携」

健康体力部の目標は、「自分の目標を明確にして、体力向上しようとする力を育てる」「食事や生活習慣を改善しようとする力を育てる」の2点です。目標達成のための手立てとして、以下の2点を実施します。

◎ 「水泳」「器械運動」「縄跳び」において、全校統一カードを使用して、自分の目標を明確にさせる。運動量を確保した授業を行う。

6年間を見通した学習カードを用いることで、自分の目標を明確にさせやすくします。また、体育授業の工夫に努め、運動量を確保した授業を行います。そうすることで、自分の目標達成に向かって、たくさん体を動かす姿を目指します。

◎ 生活チェック週間を通して、家庭と連携して食事や生活習慣の改善に努めさせる。

年3回の生活チェック週間（ばっちり・にっこり・すっきりカード）を通して、食事や生活習慣の大切さについて家庭と連携して指導していくことで、自分の課題を改善しようとする姿を目指します。

（健康体力部 主任 本間 伸吾）

## 〈特別支援教育部〉

### 今年も葛小 UD スタンド10を取り組みます！

今年度も、葛塚小学校では、教育におけるユニバーサルデザイン（UD）の視点を入れた取組を行います。

どの子ども分かる授業と集中できる環境作りをするため下のような10個の項目（葛小UDスタンダード10）の取組を全校体制で行います。

環 境	①	教室前面の掲示物は、教育目標と1日の流れのみとする。
	②	授業後、黒板を消して次時に備える。
	③	学習用具やファイル類の置き場所を決め、片付け方を文字や写真で明示する。
	④	提出物の置き場所を明示する。
	⑤	休み時間や教室を空ける時、下校時は、椅子を入れる。
授 業	⑥	1時間の流れを明示する。（プレートボードの活用）※ゴールを示し、方向づける。
	⑦	発問や指示は一時に一事にする。
	⑧	視覚教材などを活用し、引きつける工夫をする。
	⑨	課題が終わった後にやるべきことを用意し、空白の時間をつくらない。
	⑩	話し手の方に体を向かせて、話を聞かせる。

当たり前、あるいはすでに知っているルールを写真に撮って貼るなど「視覚化」することで、子どもたちは、口で何回も言うより、理解が容易になることが多くあります。葛小UDスタンダード10を有効に活用して、誰もが安心して学べる授業環境作りを進めます。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

（特別支援教育部 主任 羽田 睦子）

## 〈食育部〉

# 食を通じて豊かな心と健康な体作りを目指します

成長期にある児童の心身の健全な発達のために、栄養のバランスがとれた食事を提供するとともに、学校給食を身近な生きた教材として授業で活用するなど食育の取組をすすめていきます。今年度の食育の取り組みについては下記の内容となります。

### ◎給食の指導を計画的に行います。

4月	給食の約束や決まりを守ろう
5月	食事のマナーを身に付けよう
6月	健康によい食べ方をしよう
7月	安全と衛生に注意して食事をしよう
8・9月	能率的な準備や後始末を工夫しよう
10月	マナーを守り、楽しく会食しよう
11月	バランスよく多くの食品をとろう
12月	規則正しい食事をしよう
1月	感謝して食べよう
2月	とり過ぎや不足しがちな栄養に注意しよう
3月	食べ物を大切にしよう

- ・食に関する年間指導計画に基づき、月ごとの目標に合った内容について学級指導を行います。



### ◎給食時間を活用して指導を行います。

- ・給食委員会が料理や栄養に関する内容の一口メモを放送します。
- ・毎月19日の「食育の日」に合わせて、学級担任による食育ミニ指導を実施します。
- ・楽しい雰囲気ですぐに食事が出来るようにあいさつやマナー等についての指導を行います。

### ◎リクエストメニューを実施します。

- ・家庭科の授業で栄養のバランスがとれたメニューを6年生に考えてもらいます。

### ◎健康教育部と連携して食育の取組を行います。

- ・栄養バランスの取れた食事への意識付けを行い、自分の食生活を見直し、健康な体作りに取り組みます。

### ◎食についての情報提供を行います。

- ・家庭との連携が深まるように、給食だよりや試食会等で食や健康について情報を提供します。

(栄養士 湊 聖子)